

鑄鉄からの脱マンガン・脱クロム技術の開発
(中間評価)

質問・意見

回答

E委員	脱炭を考慮しないでいいのですか。	脱炭のスピードはSiの場合に比べてかなり遅いので、あまり問題にならないと考えています。
	酸化物による酸化は平炉のデータが使えると思うのだが、それはできないのか。	平炉のデータはSi含有量が低い場合のデータなので、あまり参考になりません。
	スラグの生成には何をを用いる予定ですか。	酸化鉄や石灰を使う予定です。
F委員	コスト計算をしているが、計算値は実績ですか。	目標値です。添加量を少なくする方法を見つければ、十分達成できる値です。
E委員	岩手大学とのコスト比較において、岩大もレアアースとしてそれを含有した廃棄物を使用しているのではないかと？	廃棄物として売られているのではなく、現在既に商品として販売されています。
A委員	岩手大学の教授が研究している薄肉強靱鑄鉄と比較してどのような特徴がありますか。	強度は同じ程度です。衝撃値や伸びについては、CrやMnを除去したものが優れています。
D委員	鑄鉄なのでSiの含有量が重要だと思うが、その点についてはどのようにお考えですか。	酸化剤として酸素を使うとSiが酸化されてしまうので、酸化鉄を用いるなど酸化剤を工夫しなければなりません。
	シリカ坩堝を使用してみてもどうか。	ノロが塩基性になると、使用は難しい。酸性のノロだと使用は可能と思われます。
B委員	高Mn材のリサイクルは世界的な課題なので、もっとスケールが大きい研究のほずです。プレゼンテーションでそのことをもっとアピールすべきだと思います。	確かに県外の大手企業からの要望もありますが、まず県内の企業で技術を確立することが当センターの使命と考えています。 (推進監) 県の機関として予算要求する際に、どうしても「県内企業のため」という大前提を県庁に示さなければなりません。そのことがプレゼンテーションにも反映されたためと考えられます。しかしながら、各研究員はB委員のご意見にあったような思いをもって研究を行っていると思います。